



丹那隧道西口坑内模型

思ひ出は恰度一年前、人は大震災後の恐怖に猶ほ襲はれてをつた時、大正十三年二月上旬丹那トンネル西口坑内四千九百五十尺の地點に大崩壊が起つて、此所に丹那トンネル第二回目の大犠牲を生ずるに至つた。

世人が此の出来事を唯の社會の一慘事として見逃す事は餘りに冷淡である。我々は世人と俱に大なる注意を以つて此の難工事を視ねばならぬ。然し此工事の擔當者が如何に困難苦心しつゝ工事を進めつゝあるかは、實地を見るより外に殆んど想像もつかないのである。

爰に崩壊後着々として進められた施工の狀況の一部を紹介する事は我々の當然の務である。

圖は大正十三年二月崩壊せし斷層地帯にセメント、モルタルのグルウチングをなす處の模型なり、斯くして軟弱なる層を固定せしむ。